



介護助手導入 事例集

令和8年3月

社会福祉法人三重県社会福祉協議会
三重県福祉人材センター
令和7年度 介護助手等普及推進事業（三重県委託事業）

はじめに

少子高齢化に伴い、生産年齢人口が急激に減少する中、介護現場における人材確保は喫緊の課題となっています。こうした状況下で、本県では働く意欲のある元気な高齢者をはじめとする地域の多様な人材を「介護助手※」として受け入れ、介護職員の業務負担の軽減や専門職化につなげる取組を推進しています。

一方で、介護助手の導入を検討している施設・事業所からは、「高齢者の雇用による身体面の不安」や「業務の切り分け方が分からない」、「指導体制をどう整えるべきか」といった不安の声も聞かれます。

そこで本事例集では、介護助手を実際に雇用している施設における募集・採用から就労・定着までの具体的な取組状況や工夫を紹介し、導入の際の参考としていただけるよう作成いたしました。

本事例集が、介護人材の確保やサービスの質の向上につながり、地域全体で必要な介護を支えていくための一助となれば幸いです。

※「介護助手」とは、高齢者を支援する介護施設・事業所において、直接的な介護業務は行わず、資格や経験がなくても担うことができる周辺業務（主にお部屋の清掃、シーツ交換、洗濯、食事配膳・下膳、お話し相手等）を行う職員のことです。

目次

- 1 医療法人緑の風
介護老人保健施設 いこいの森（津市）
「地域の元気高齢者が活躍！迷わない「自走化」の仕組み。」 …… 3
- 2 社会福祉法人青山福祉会
特別養護老人ホームいがの里（伊賀市）
「定期的な面談で潜在的な意欲を引き出す定着の工夫」 …… 5
- 3 社会福祉法人悠和会
地域密着型特別養護老人ホーム真菰の郷（菰野町）
「介護助手が支える現場に生まれた心身のゆとり」 …… 7
- 4 有限会社桜の里
グループホーム桜の里（玉城町）
「介護助手で実現した“利用者に関わり続けられる”働き方」 …… 9
- 5 社会福祉法人 熊野市社会福祉協議会
熊社協飛鳥・五郷通所介護事業所（熊野市）
「支援機関と連携した障がい者雇用における介護助手の活躍」 …… 11

 地域の元気高齢者が活躍！迷わない「自走化」の仕組み。



医療法人緑の風 介護老人保健施設 いこいの森

サービス種別：介護老人保健施設
所在地：津市河芸町東千里3-1
定員：入所 100名
従業員数(介護職員):35名(正社員27名、準社員6名、パート2名)
介護助手の人数：25名

介護助手の属性

単位：人

性別		年代						勤続年数					介護関係 資格	
男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上	1年 未満	～3 年	～5 年	～10 年	10年 以上	あり	なし
2	23	1	2	1	3	9	9	4	4	3	8	6	3	22

介護助手導入の経緯

導入の背景には、介護職員の業務が多岐にわたり、現場から業務負担の大きさから、目指す介護業務ができなくなってきたという声が上がっていたことがあります。

当時は他職種に比べて介護職員の有給休暇の取得率も低いという状況がありました。また、開設当初から働く職員が年齢を重ね、以前のようなハードな働き方が難しくなってきたという事情もありました。

こうした中、施設長が外来の診察を通じて、地域には就労意欲のある元気な高齢者が多いことに気づき、周辺業務を依頼できるのではないかと考えたことが導入のきっかけとなりました。

介護助手導入までのプロセス

平成27年にモデル事業として開始し、平成28年から本格的な導入に至りました。導入後も三重県が作成している「介護助手導入実施マニュアル」も参考に取り組みを継続しています。

業務の切り出し 施設長が介護長に指示を出し、周辺業務のリストアップを行いました。それらの業務について、マニュアルを作成しました。

募集・採用 クリニックや近隣の美容院へのチラシ掲示、職員による紹介なども活用しています。

指導体制 採用後は、介護長や介護助手担当の介護職員、ベテランの介護助手が5～6回ほど同行して実技指導を行います。最初は見本を見せ、次に実際にやってもらい、チェックを経て自信を持ってから独り立ちしてもらう流れを整えています。

介護助手の具体的な業務内容



基本的にフロアごとに介護助手を配置し、以下の業務を担っていただいています。

- 環境整備・清掃：居室や手すりの清掃、ゴミ捨て、シーツ交換、加湿器の給水
- 食事・水分補給：お茶出し（とりみ剤の調整含む）、配膳・下膳、エプロンの配布、食器・茶器の洗浄と消毒
- 入浴・整容補助：浴室準備・清掃、タオルの洗濯・補充、入浴衣類返却
- 排泄・衛生管理：ポータブルトイレの洗浄、清拭用タオルの準備（タオル巻き）、おむつの補充
- その他：入退所時の荷物整理、レクリエーションの補助、利用者との話し相手。



介護助手導入による効果

職員側のメリット | 周辺業務を切り離したことで、介護職員の残業が減少し、有給取得率も向上しました。精神的なゆとりが生まれたことで、本来注力したかった個別リハビリや利用者様への丁寧な個別対応に時間を割けるようになっていきます。

特に、早朝と夕方は介護助手がいないと回らないと現場の声をききます。

利用者側のメリット | 職員が個別対応に時間をかけられるようになったことで、認知症の周辺症状が落ち着くなどの好影響が出ています。また、年齢の近い介護助手との何気ない世間話も、利用者様の楽しみとなっています。

施設側のメリット | 介護助手を「介護職へのステップアップの場」として活用しており、介護職員として入職した経験の少ない方にも、まずは介護助手業務をやっていただき、介護業務に移行していきます。無理なく業務に慣れることで離職防止や人材確保につながっています。また、正規職員の時間外勤務手当やパート職員の人件費の削減につながっています。

TIPS 導入・運用における工夫

マニュアル作成



介護助手が迷わず一人で動けるよう、徹底したマニュアル化と視覚的な工夫を行いました。例えば、チェックリストを作成したり、とりみ剤の分量を間違えないよう専用スプーンやコップに分量を記入したシールを用意するなど、誰でもオートマチックに業務を遂行できる仕組みを作っています。

▼とりみ剤の分量が貼られたスプーン



役割の明確化



介護助手導入の目的や、「身体介護はプロの介護職、周辺業務は介護助手」という切り分けをトップダウンで明確にしました。

現場の指示体制



各フロアのリーダー中心となって、介護職員の空いた時間に何をするべきかを的確に指示できる体制を整えています。

介護助手の1日の業務例

出勤

9:00

清掃（ベッド周辺清掃・トイレ消毒・居室トイレ清掃）
パジャマ交換

10:00

フロア作業

11:00

シーツ交換

12:00

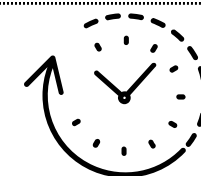
浴槽（個浴）清掃

12:30

下膳・ゴミ集め

13:00

退勤



👉 定期的な面談で潜在的な意欲を引き出す定着の工夫



社会福祉法人青山福祉会 特別養護老人ホームいがの里

サービス種別 : 介護老人福祉施設
所在地 : 伊賀市愛田550番地
定員 : 60名
従業員数(介護職員):55名
介護助手の人数:19名

介護助手の属性

単位:人

性別		年代							勤続年数					介護関係資格	
男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	1年未満	~3年	~5年	~10年	10年以上	あり	なし
3	16	1	1	1	2	2	6	6	3	6	5	4	1	0	19

👉 介護助手導入の経緯

導入のきっかけは、介護職員の採用が困難であったことと、ユニットケアの質を高めるために「クックチル」を導入したことでした。クックチルは、ユニット内で湯煎し、盛り付けを行うことで、食事の匂いなど五感を通じて生活の質（QOL）を高める取り組みとして導入しました。

始めは介護職員が行っていましたが、調理準備に1時間ほどかかり、利用者対応との両立が大きな負担となっていました。

この負担を軽減し、職員が専門的なケアに専念できる環境を作るため、介護助手を導入することとしました。

👉 介護助手導入までのプロセス

説明会の開催

令和元年度から介護助手導入支援事業を活用し、導入を進めました。募集に際しては、まず説明会を実施しました。いがまち地域を対象に郵便局の「タウンメール（全世帯ポスティング）」をしました。その結果、説明会に約40名の応募があり、地域の高い関心を集めることができました。

業務の切り出し

三重県が作成した「介護助手導入実施マニュアル」を活用し、介護職員以外でも対応可能な業務の切り分けを行いました。

段階的な役割拡大

当初は食事の後片付けや清掃をメインとしていましたが、慣れてきてから声かけをし、クックチル調理の業務も担っていただくようになりました。

介護助手の具体的な業務内容



ユニットによって異なりますが、主には以下の業務を担当しています。

- ・食事関連 : クックチルの準備（湯煎、盛り付け）、配膳、後片付け。
- ・環境整備 : ユニットフロア・居室の清掃、シーツ交換。
- ・見守り・生活支援 : ユニットフロアでの見守り、利用者との話し相手。
- ・身体介助（一部） : 認知症介護基礎研修を受講し、本人の合意と技術習得が確認できた場合に限り、食事介助や移動介助の際の補助（見守り等）を行うこともあります。

👉 介護助手導入による効果

職員の専門性向上 | 周辺業務を介護助手が担うことで、職員が利用者一人ひとりと向き合う時間が増えました。例えば、これまで3分で終えていたケアを会話をしながら5分かけるといった余裕が生まれ、専門性を発揮しやすくなっています。今は、介護助手がいないと業務が回らない状態になっています。また、業務の切り出しを通じて、改めて介護職の業務の専門性を見つめ直す機会となりました。

安全性の向上 | 介護助手がフロアで見守りを行うことで、職員が居室で介助している際も事故のリスクが軽減されました。また、介護助手が利用者の状態変化や緊急事態（誤嚥の兆候など）を早期発見し、職員に報告することで未然に事故を防げた事例もあります。

利用者のQOL向上 | クックチルにより、ユニット内で食事の準備が行われることで、匂いにより生活リズムが整い、利用者と介護助手の会話も増えるなど、活気ある生活環境に繋がっています。

介護職員へのキャリアアップ | 介護助手から介護職にキャリアアップした方が、これまでに2名おり、1名は今も活躍してくれています。

TIPS



導入・運用における工夫

役割分担の明確化



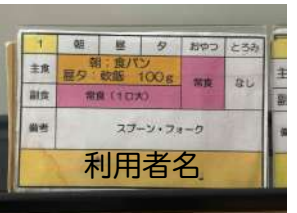
導入当初は役割分担が明確になっていなかったところもあり、介護助手から「どこまでが業務範囲かわからない」といった意見が出るがありました。そこで、各ユニットのリーダーが中心となり、業務分担を明確化して職員全体に周知しました。現在は、介護助手の状況を見ながら柔軟に業務を依頼できる体制を整えています。

一目で分かる仕組み



家庭料理とは異なる「一口大」「極刻み」といった食事形態の指定に戸惑う介護助手もいました。そこで、利用者ごとの食事形態を明記した「食札（しょくさつ）」を作成し、誰が見ても間違えないように工夫しています。

▼食札



情報の引き継ぎ



複数の助手が交代で勤務するため、業務の実施状況の把握が課題でした。清掃やシーツ交換などの実施項目を一覧にした「チェック表」を運用し、直接顔を合わせない介護助手同士でも進捗を確認できるようにしています。

▼チェック表



定期的な面談



年1回、リーダー職員とのヒアリングを行い、本人の習熟度や希望に応じて、業務範囲や出勤日数を調整し定着につながっています。「無理なく、自分にできる範囲で」働き始め、徐々に自信を持って業務の幅を広げている介護助手も多くいます。

介護助手の1日の業務例

出勤

9:00

シーツ交換・
掃除

10:00

トイレ掃除

10:30

洗面台掃除

11:00

クックチル

12:00

配膳・見守り

12:30

食器洗い





介護助手が支える現場に生まれた心身のゆとり

社会福祉法人悠和会 地域密着型特別養護老人ホーム真菰の郷

サービス種別：地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
所在地：三重郡菰野町永井西畑456-1
定員：29名
従業員数(介護職員):28名（夜勤・短時間・外国人スタッフ含む）
介護助手の人数：4名

介護助手の属性

単位：人

性別		年代						勤続年数					介護関係資格	
男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	1年未満	～3年	～5年	～10年	10年以上	あり	なし
0	4	0	0	0	3	1	0	0	0	4	0	0	0	4

介護助手導入の経緯

当施設のようなユニット型の特養では、限られた人数で利用者のケアにあたります。そのため、以前から、食事の準備や後片付け、洗濯、清掃といった周辺業務に時間が取られ、排泄誘導や口腔ケア、着替えをはじめとする介助の際に「本来の丁寧なケア」が十分にできないという課題がありました。

そこで、周辺業務を担うスタッフがいれば助かるという現場の声を受け、介護助手を導入しました。

介護助手導入までのプロセス

業務の切り出し 施設長がトップダウンで決めるのではなく、現場の介護職員が主体となって、「プロとして自分たちがやるべき専門業務」と「切り離せる周辺業務（生活支援）」を判断し、ユニットごとにどの業務を切り出すかを決めました。

募集・採用 大々的な求人広告は出さず、主に知人の紹介や、施設近隣に住む方々とのつながりを通じて採用しています。
入職直後は、介護職員が内容を伝えて業務を覚えていただきました。

介護助手の具体的な業務内容

4名の介護助手が週5日出勤し、時間帯によって異なる役割を担っています。担当するユニットは固定ではなく、日によって異なります。なお、身体に直接触れる介助（直接介助）は行わない運用としています。

- ✧ 食事関連（朝・夕）：7:00～9:00、17:00～19:00に勤務し、配膳、下膳、食器洗いやエプロンの洗濯をメインに行います。
- ✧ 清掃・見守り（日中）：9:00～14:30に勤務し、居室やトイレの掃除、床拭き、洗濯、ゴミ出しを担当します。また、ラジオ体操への声かけや誘導などの見守りや、利用者とのコミュニケーションも行います。
- ✧ 行事の手伝い：毎週水曜日の施設内「喫茶」での接客や、月1回のイベント（カレーパーティー、焼き芋など）の準備・片付けをサポートします。



▲カレーパーティーの様子

介護助手導入による効果

専門業務への専念 周辺業務を介護助手が担うことで、介護職員が食事介助や排泄介助などのプロの仕事に集中できるようになりました。

見守りの充実 介護職員が利用者の様子を常に見守ることができる体制が整えられています。また、介助で目を離さざるを得ない時でも、同じ空間に介護助手がいることで、何かあれば声をかけてもらえるので、利用者の異変に気づきやすくなり、心理的な安心感につながっています。

現場の負担軽減 介護職員から「非常にありがたい、もっと採用してほしい」という声が出るほど、介護助手は欠かせない戦力となっています。

TIPS 導入・運用における工夫

職種間の尊重



当施設には役職（主任や係長など）を設けていません。介護職、看護職、ケアマネジャー、相談員、介護助手等、各職種がそれぞれの専門性を尊重し、対等な関係でコミュニケーションをとる文化が根付いています。介護助手であっても、同じ目的を持つ大切な仲間として、名前呼び合い、一体となって業務に励んでいます。

自律的な動き



業務内容が明確に決まっているため、今では、介護職員が細かく指示を出さなくても、介護助手自らが効率よく動ける体制が構築されています。
例えば、配膳の際には、名前プレートで確認できるようにしています。長年勤務されているので、顔と名前は一致しているので間違えることなく、介護助手も食事形態を把握しています。

▼プレートで名前を確認



ICTの活用



出退勤管理や連絡事項の共有にはスマートフォンを活用しており、高齢のスタッフも操作に慣れて円滑に連携できています。

介護助手の1日の業務例





介護助手で実現した“利用者に関わり続けられる”働き方

有限会社桜の里 グループホーム桜の里

サービス種別：認知症対応型共同生活介護
所在地：度会郡玉城町矢野139-3
定員：18名（9名×2ユニット）
従業員数(介護職員):21名
介護助手の人数：2名

介護助手の属性

単位：人

性別		年代						勤続年数					介護関係資格	
男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	1年未満	～3年	～5年	～10年	10年以上	あり	なし
0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	2

介護助手導入の経緯

導入のきっかけは、もともと介護職として入職した職員が、病気を理由に直接的な介護業務を継続することが難しくなったことでした。

清掃業務への転換も検討しましたが、本人から「利用者さんに関わりを持ちたい」という強い意向があったため、介護助手制度の活用を提案しました。

また、もともと清掃員として勤務していた別の職員も、本人のアクティブな性格とステップアップへの意欲から、あわせて介護助手として雇用することとなりました。

なお、介護助手には、認知症介護基礎研修を受講いただいています。

介護助手導入までのプロセス

業務の洗い出しと仕分け 管理者だけでなく現場職員からも聞き取りを行い、業務を洗い出し、本人のできることの擦り合わせを行っていきしました。

役割の明確化 「直接的な身体介助は行わない」という境界線を明確にし、介護助手ができること・できないことを厳格に分けました。

働き方の工夫 介護助手の業務だけでは勤務時間が短くなるため、清掃員としての業務と兼務することで、本人の希望する労働時間と給与を確保できるよう配慮しました。

介護助手の具体的な業務内容

直接介助以外の周辺業務を中心に、多岐にわたる業務を担っています。

- 見守り・コミュニケーション：ホールでの見守り、利用者の話し相手、そわそわしている利用者への声かけ。
- レクリエーションの補助：YouTubeを活用した体操の実施や、利用者が体操に参加できるように促す声かけ。
- 清掃・洗濯業務：清掃・洗濯業務：居室やフロアの清掃、食器洗い、洗濯物の配布。
- 共同作業：利用者と一緒に洗濯物を畳んだり、フロアの飾り付けを制作する。
- 利用者の状態の報告：清掃中などに気づいた利用者のちょっとした変化や、居室の汚れなどを介護職員へ報告する。

介護助手導入による効果

職員側の安心感向上 | 介護職員が別室で介助を行っている間も、介護助手がホールで見守りをしてくれることで、「誰かが見ていてくれる」という大きな安心感に繋がっています。
また、介護助手が清掃などの際に、居室で過ごしている利用者の変化や環境の不具合に気づき、報告してくれるようになりました。

介護業務への集中 | 周辺業務を介護助手が担うことで、介護職員が本来の専門的なケアに集中できる体制が整いました。

利用者への好影響 | 介護職員だけだと忙しくて話しかけられないときも、介護助手が日常的な会話や声かけを行うことで、利用者が落ち着いて過ごせるようになっていきます。
介護助手本人の「利用者とかかわりたい」という意向もかなっています。

介護助手本人の意欲 | もともと介護の仕事を希望していた方なので、直接介助は行わずとも、利用者と触れ合う機会を維持でき、働く意欲（モチベーション）の継続に繋がっています

TIPS 導入・運用における工夫

徹底した業務の区切り



最も苦労したのは業務の仕分けでした。中途半端な区切りにすると「誰の仕事か」という不満やトラブルの元になるため、誰がどの業務を行うかを3週間から1か月かけて明確にしました。（右図）

円滑なコミュニケーション



介護助手への指導者は置きませんでした。小規模なグループホームの特性を活かし、固定のユニットで職員と介護助手が常に情報共有を行える環境を作りました。

▼業務分担表
GH 業務分担表

	業務	介護職員	介護助手	清掃員
2時～	朝食準備	●		
	手洗指導	●	●	
	食器運搬	●		
	配膳	●	●	
	食器片付け	●	●	
	食事介助	●	●（※）	
	居室休養指導	●		
	下着・排泄物処理	●	●	
	着脱指導	○		●
	ゴミ捨て	●		●
	洗濯干し	○	●	●
	シーツ替え	○	●	●
	布団干し	○	●	●
	お風呂の準備・お風呂掃除	○	●	●
9時～	便器掃除	●		
	便器掃除（お風呂内）	○	●	●
	タオル・シーツ	●	●	
	部屋の整理・片付け	●		
	廊下清掃	●		
	廊下片付け	●	●（※）	
	入浴介助	●		
11時～	昼食準備	●		

介護助手の1日の業務例

出勤

9:00

各居室、フロア、玄関等の掃除
衣類片付け

11:00

見守り及び配膳・下膳、食器洗い

13:00

休憩

14:00

トイレ掃除、洗い物
衣類片付け（入居者と）
その他
（レクリエーション、入居者と飾り作成・裁縫等）

15:30

食器洗い

16:00

退勤



支援機関と連携した障がい者雇用における介護助手の活躍



社会福祉法人 熊野市社会福祉協議会 熊社協飛鳥・五郷通所介護事業所

サービス種別 : 通所介護（デイサービス）
所在地 : 熊野市飛鳥町野口678
定員 : 18名
従業員数(介護職員):9名
介護助手の人数:1名

介護助手の属性

単位:人

性別		年代						勤続年数					介護関係資格	
男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	1年未満	～3年	～5年	～10年	10年以上	あり	なし
0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1

介護助手導入の経緯

導入のきっかけは、以前から関わりがあった「紀南地域障害者就業・生活支援センター Colors（以下、「Colors」という。）」からの相談と、事業所側のニーズが合致したことでした。

対象となった方は、Colorsによる支援を受け、療育手帳を取得して生活リズムを整えるために就労継続支援B型に通っていましたが、家庭の事情から一般就労を目指したいという強い意向を持っていました。一方で、当事業所では、それまで介護職員が営業終了後や業務の合間に清掃や洗濯を行っており、時間外勤務の発生や日中の人手が不足することが課題となっていました。

介護職員が不足する中で、これらの周辺業務を担う人材を求めているタイミングで実習を受け入れることになりました。

介護助手導入までのプロセス

- 支援機関の活用** Colorsが深く関与し、支援の枠組みを活用しました。
- 実習の実施** 最初に1週間程度のステップアップ実習を行いました。この際、Colorsの支援員が同行し、具体的な業務の進め方を本人に指導する形をとりました。
- 業務の切り出し** 介護職員が本来の介護業務に専念できるよう、それまで職員が負担していた清掃や洗濯などの周辺業務を切り出しました。介護助手が慣れてきて時間に余裕ができたから新たな業務も対応できるようになっていきました。

介護助手の具体的な業務内容

勤務時間は13:15~17:15の4時間で、主に以下の業務を担当しています。

- ・清掃業務 : お風呂掃除（2箇所）、フロア全体の掃除機がけ、トイレ掃除（一般用および車椅子用）、清掃後の窓の戸締まり。
- ・洗濯業務 : 洗濯機を回す、干す、畳むといった一連の作業。
- ・事務補助 : 利用者のバイタルチェックや一日の様子を記した書類を家族への連絡ノートに挟む作業など。
- ・その他 : レクリエーションで使用する材料等の準備、灯油の補充、時間に余裕がある際の公用車の洗車など。



介護助手導入による効果

職員側のメリット | 利用者の送迎から戻った後に職員全員で行っていたトイレ掃除などを介護助手が事前に済ませてくれているため、残業が大幅に減少しました。以前は全スタッフが毎日1時間程度の残業をしていましたが、心身のゆとりを持って本来の介護業務に専念できるようになっています。

現場の安定 | 介護助手が1名入ることで、入浴後の掃除やレクリエーション時の人手不足が解消されました。今では欠かせない戦力として認識されており、本人が休むと現場がバタバタするほどの影響力があります。

本人への好影響 | 「仕事に来るのが楽しい」と生き生きと働いており、周囲の職員からの「助かっているよ」という声かけが本人のやりがいにつながっています。

TIPS 導入・運用における工夫

視覚的な指示



導入当初は、一度に多くの指示を出すと混乱（フリーズ）してしまうことがありました。解決策として、Colorsの協力のもと、やるべきことをラミネートした「やることリスト」を作成し、各場所に掲示しました。これにより、次に何をすべきか自分で確認しながら動けるようになりました。

▼各所に掲示されたやることリスト



段階的な業務習得



最初から全てを任せるのではなく、一つ終わったら次の指示を出すというステップを踏み、慣れてきたら徐々に業務の幅を広げていきました。

こまめなコミュニケーション



管理者や現場職員が積極的に声をかけ、不安を軽減させるよう努めています。また、本人の体調や家庭の事情（子どもの通院など）に合わせて、勤務時間を調整するなどの柔軟な対応を行っています。

役割の明確化

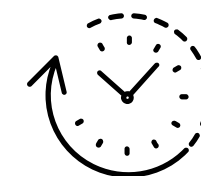


当事業所では「この仕事は助手の方の役割」と明確に住み分けを行っており、職員が手を出さずに任せる体制を徹底しています。

介護助手の1日の業務例

出勤

13:15	13:20	13:45	14:40	15:00	16:15	16:15	16:15	17:15
ミーティング（今日の仕事の説明）	洗濯業務（洗う）	お風呂の清掃	洗濯業務（干す）	連絡ノート、トイレ掃除、レクリエーション等の手伝い		フロア掃除	事業所の戸締り	退勤



介護助手導入のための参考資料、ホームページ



介護助手導入実施マニュアル
(2019年3月 三重県)



三重県福祉人材センター
(介護助手ページへのリンク)

介護助手導入事例集

令和8年3月

社会福祉法人三重県社会福祉協議会

三重県福祉人材センター

〒514-8552 三重県津市桜橋2丁目131(三重県社会福祉会館内)

TEL059-227-5160 FAX059-222-0170